

# 段階的に、無理なく合格力をつけられる！

## ステップアップ式カリキュラム

答練本科生は、**年内で基本論点を押さえるところから始まり、段階的に本試験レベルへ近づいていくステップアップ式の答練体系**なので、無理なく実力を高めていくことができます。また、**体系的に重要論点を網羅できるよう出題範囲が練られている**ため、シリーズ(本科生)で受講することで効果が飛躍的に増大します。段階的にステップアップしながら重要論点を網羅することができるので安心です。



姫野のワンポイントアドバイス

～答練の効果的な使い方～

答練は、「予習」、「答練中」及び「復習」の3つのステージに分けて活用しましょう。「予習」は、答練をペースメーカーにし、次回の答練で出題される範囲のインプット作業を行いましょう。皆さんは、約1年の「予習」をして本試験に臨むわけですが、その最小単位として、約1週間の「予習」をして「答練」に臨みましょう。

### 2018年8月

過去問から出題者の“意図”を読み解く！

択一実戦過去問  
～キムラの目～  
全30回(各回90分)

レベルアップ式演習で  
記述力を底上げする！

記述式  
Skill Up 講座  
全15回(各回180分)

### 2018年11月

(旧:ホップ答練)  
総合力底上げ答練 全6回

出題数: 択一式 全210問(各回35問)  
記述式 全12問(各回2問)

午前科目・午後科目の択一式35問と記述式2問を交互に出題する総合答練。直前期の実力をキープするとともに、知識の上乗せをし、実力を底上げすることができます！



姫野のワンポイントアドバイス

苦手科目が少なく、また、過去問の知識も十分であることに加え、一定の未出の知識を習得している合格者の多くは、このような「バランス」の良さがあり、この「バランス」は、確実な合格を狙う上で欠かせない要素となっています。「総合力底上げ答練」では、基礎的な論点を題材とする問題が出題されます。まずは、この「総合力底上げ答練」で苦手な分野を克服し、合格に必要な「バランス」を整えることにより、次のステージ「科目別全潰し答練」に進みましょう。

※万が一、改正民法(債権編)が2019年度司法書士試験の範囲となった場合も、万全の改正対応を行います。

### 2019年1月

(旧:ステップ答練)  
科目別全潰し答練 全12回

出題数: 択一式 全420問(各回35問)  
記述式 全24問(各回2問)

年明けからスタートしたい方に最適。全科目を科目別・体系別に出題。全12回の答練を受講し復習すれば、試験範囲を一通り回せるので、学習のペースメーカーとしても最適です。科目毎にじっくり勉強できるのはこの時期だけ！

- 民法・不動産登記法 6回
- 商法・商業登記法 3回
- マイナー科目 3回



木村の流儀

年明けから、科目別全潰し答練を受けるメリットは何か？それは弱点を見つけやすくすることです。では、その見つけた弱点をどう克服するか？その克服方法こそ、解説講義で私がお伝えする内容なのです。初学者向け講座と受験経験者向け講座の両方を担当していると、それぞれのレベルに応じた弱点克服法があることに気づきます。私の解説講義では、正答率を使うため、それぞれ、自分が間違った問題の重要度が即座にわかるようになっており、弱点克服のための復習に威力を発揮します。



姫野のワンポイントアドバイス

過去問の論点(既出の論点)だけでなく、まだ出題されていない論点(未出の論点)をしっかり押さえている合格者の多くは、論点的な穴のない学習を行っています。「科目別全潰し答練」では、既出・未出を問わず、「重要論点」を網羅的に出題します。科目ごとに実施されますので、すべての科目について、穴のない学習が可能となります。

### 2019年4月

(旧:ジャンプ答練)  
合格力完成答練 全6回

出題数: 択一式 全210問(各回35問)  
記述式 全12問(各回2問)

現在の実力がどの程度か、弱点を知り、直前期の勉強の指針となる答練です！



木村の流儀

合格力完成答練の狙いは、「実戦力アップ」です。ただし、単に問題を解いて解説冊子を読むだけでは、実戦力はアップしません。むしろ、扱い方を間違えれば問題に振り回されるだけなのです。そこで、問題に振り回されないためには、的を絞る必要があります。それも独りよがりの絞り込みではなく、本試験を意識したものでなくてはなりません。私の解説講義では、科目別全潰し答練のとくと同じく、正答率を使うため、独りよがりの絞り込みにはなりません。どれほど答練が合格に必要なものかはセミナーにてご確認ください。



姫野のワンポイントアドバイス

「可能な限り、1年に一度しかない本試験のシミュレーションをしている合格者の多くは、答練では「本試験」をイメージし、本試験では「答練」をイメージします。「合格力完成答練」では、その名のとおり、「合格力」を「完成」させるため、総合的かつ実戦的な問題が出題されます。問題のレベルは最も本試験に近いので、効果的なシミュレーションが可能となります。



姫野のワンポイントアドバイス

模試は、本試験を想定し、解法を実践し、また、時間配分の訓練等をするためにあります。つまり、模試といえども、答練と同様、あくまで普段の勉強の成果を確認するものです。ご自身の課題を設定し、その達成度を確認しましょう。私が担当する全国模試シリーズ解説講座では、択一式問題・記述式問題の解法の提示や出題可能性の高い論点の指摘や解説等を行いますので、ご自身で復習をされる「前」に、ぜひご受講ください。

全国実力Check模試 全1回

全国公開模試(第1回)

全国公開模試(第2回)

全国公開模試(第3回)

2019年度司法書士筆記試験

別途申込でさらに答練の効果が期待できます！